

政策番号	11	政策分野	大学
------	----	------	----

基本方針	悠久の歴史、伝統的な文化芸術、最先端技術等の京都の魅力とともに、「大学のまち京都」を発信し、国内外の学生をより多く受け入れ、先見性や創造性、卓越した指導力をもつ人材を育成する。また、集積された大学の知を新産業の創出や文化芸術の創造に生かすことにより、魅力と個性にあふれる「大学のまち・学生のまち」をめざす。
------	---

担当局	総合企画局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関係する 主な分野別計画等	大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2014-2018 京都市国際化推進プラン
---------------------	---

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	24 年度	25 年度	26年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	市内の学生数が全国の学生数に占める割合(%)	4.6	5.0	a	a	4.6	4.9	4.7	104.3%	a
				a	a					a

施策の客観指標評価		参照 ページ	評価		
施策番号	施策名		24年度	25年度	26年度
1101	京都で学び、住み続けたい「大学のまち」の実現(1指標)	129	a	a	a
1102	大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大(1指標)	131	c	c	d
1103	学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現(1指標)	133	a	d	e
1104	産業の振興と大学教育の充実に向けた産学公地域連携の推進(1指標)	135	a	b	b
	(4施策平均)		a	b	c

政策の客観指標総合評価			24年度	25年度	26年度
(政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)			—	—	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		24年度	25年度	26年度
1	京都は、「大学のまち」として学びの環境が充実し、多様な伝統文化芸術等に触れる機会に恵まれている。	a	a	a
2	京都では、世界から留学生や研究者が集まり、国際社会で活躍する人材が育っている。	b	b	b
3	京都の大学は、世界に貢献する高い研究成果を上げている。	a	a	a
4	学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。	c	c	b
5	大学の人材や研究成果は、産業の活性化と雇用の創出に役立ち、地域の発展にもつながっている。	b	b	b
	市民生活実感調査総合評価	a	a	a

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

24年度		25年度		26年度	
順位	%	順位	%	順位	%
20	10.2%	25	72.1%	24	74.4%

3 総合評価

A	政策の目的が十分に達成されている	25年度	A
【客観指標】全国の高等学校卒業者は前年度から約3万人増加したが、大学・短大進学者については、ほぼ横ばいとなっており、全国の学生数は前年度から約1万人減少している。そのような中、全国の学生数に占める市内学生数の割合について、新たなキャンパスの開設等により市内学生数が前年度から約7,000人増加したことにより、4.6%から4.9%に増加し、3年連続a評価となり高い評価で安定している。 【市民の実感】●市民の実感は、3年連続a評価と高い評価で安定している。 ●学生のパワーによるまちの活性化について、c→b評価へと改善しており、輝く学生応援プロジェクトや学まちコラボ事業などに取り組んだことにより、人口の約1割に当たる学生のエネルギーが、京都市全体に浸透してきていることが窺われる。 ●学びの環境の良さと、大学の研究成果の高さについては、3年連続a評価と高く評価されている。また、大学や研究分野での国際社会との人材交流や、大学の産業・雇用・地域への貢献についても、3年連続b評価となっており、肯定的に評価されている。 【総括】●客観指標も市民の実感もa評価であり、総合評価は3年連続でA評価となった。多くの大学が集積している「大学のまち京都」の強みが反映された結果となった。 ●こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、十分に達成されていると評価する。		24年度	A

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価＋市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価			参照ページ
		24	25	26	
1101	京都で学び、住み続けたい「大学のまち」の実現	A	A	A	130
1102	大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大	B	B	B	132
1103	学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現	B	C	C	134
1104	産業の振興と大学教育の充実に向けた産学公地域連携の推進	B	B	B	136

<今後の方向性>

●平成25年度に大学コンソーシアム京都と協働で策定した「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2014-2018」を着実に推進し、更なる学びの環境の充実に向け、大学連携による「学び」の仕組み・機能の強化や、京都で学ぶ魅力を高めていくとともに、京都における大学施設の展開・立地の推進を支援する。

●大学の国際化の推進と国際社会で活躍する人材の育成に向けて、各大学独自の取組に加えて、海外に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信や、海外での京都の大学紹介フェアの開催、多言語ホームページの運営などによる誘致活動や生活関連情報の提供、住環境整備への支援を行うなど、留学生の受入拡大に向けた取組を行う。

また、大学コンソーシアム京都加盟大学等が実施する優れた海外留学派遣プログラムに対し開発支援金を支給する等、国際的な視野を持ち、京都市域の活性化に貢献できる人材の育成及び学生の海外留学促進を図る。

●学生の力による京都のまちの活性化に向け、「輝く学生応援プロジェクト」をはじめとした学生の社会貢献・地域活動に対する支援の拡充などにより、活気あふれる「学生のまち」の実現に取り組む。

●大学の人材や研究成果を産業の活性化や雇用創出、地域の発展につなげるため、大学の知の集積を生かした産学公地域連携を推進する。

●魅力と個性にあふれる「大学のまち・学生のまち」の更なる推進に向け、集積された大学の知や学生のパワー、大学コンソーシアム京都の連携の力を都市の活性化に生かす。

政策名	11	大学
-----	----	----

指標名	市内の学生数が全国の学生数に占める割合（％）		
-----	------------------------	--	--

担当部室	総合政策室	連絡先	2 2 2 - 3 1 0 3
------	-------	-----	-----------------

1 指標の説明

市内の大学・短期大学の学生数が全国の学生数に占める割合

2 指標の意味

「大学のまち京都・学生のまち京都」として、大学や学生の集積状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：文部科学省「学校基本調査」

4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値 4.6	平成32年度目標値 5.0	根拠 18歳人口が減少する中で、確保を目指す全国の学生に占める割合
------------------	------------------	------------------	--------------------------------------

	前回数値 24年度 4.6	最新数値 25年度 4.9	推移 0.3%増	単年度目標値 数値 4.7	根拠 平成32年度目標値の達成に向け、当該年度に達成すべき数値	達成度 104.3%
--	---------------------	---------------------	-------------	---------------------	------------------------------------	---------------

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値				根拠	

5 評価基準

最新数値の単年度目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：95%以上～100%未満
c：90%以上～95%未満
d：85%以上～90%未満
e：85%未満

6 基準説明

・単年度目標値を達成すればa評価
・以下5%刻みでb～e評価

7 評価結果

24	25	26
a	a	a